

地球環境の保護

健康な暮らしを支えるため、事業活動において常に地球環境への影響を配慮し、その保護に積極的に取り組みます。

地球上のあらゆるものは、豊かな地球を存立基盤として成り立っています。住友生命は、未来に向けた持続可能な社会づくりのために、スミセイ環境方針のもと、事業活動における省エネ・省資源の取り組みを行うとともに、環境保護プロジェクトの実施などを含めた幅広い環境保護活動を展開しています。

サンゴ礁保全プロジェクト

人間に豊かな恵みをもたらす、生物多様性の観点からも重要な役割を担っているサンゴ礁が、地球温暖化、海洋汚染、開発、自然災害などを原因として消失が進んでいます。

当社は、サンゴ礁の保全と持続可能な地域づくりのため、平成20年から「サンゴ礁保全プロジェクト」を実施し、2地域でのNGO活動を支援しています。

石垣島 しらほサンゴ村

石垣島の白保の海には、世界最大級といわれる貴重なアオサンゴ群落が残されています。

当社は、地元白保の人たちとともにサンゴ礁環境の保全と持続的な地域づくりに取り組む公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)の活動を支援しています。WWFジャパンは、白保住民を主体とするサンゴ礁の調査や保全活動、環境学習、自然体験型観光の振興や地域特産物の開発の支援に取り組んでいます。



©WWFジャパン

フィジー共和国 ビチレブ島

ビチレブ島南西部の沿岸の「コーラルコースト(サンゴ礁の海岸)」は、かつて名前のとおり豊かなサンゴ礁が広がる地域でしたが、近年、リゾート開発や地域住民の破壊等によりサンゴ礁が被害を受けています。

当社は、地元住民とともにサンゴ礁の再生・保全に取り組む公益財団法人オイスカの活動を支援しています。オイスカは、サンゴの育苗・植付け、地元住民への環境啓発、サンゴ礁のモニタリング調査などに取り組んでいます。



©オイスカ

<VOICE>

— “地域の海は、地域で守る!” 人と自然の調和した未来へのご支援に感謝 —

世界的に優れた自然と生物多様性で知られる南西諸島。WWFジャパンではその保全のモデルづくりとして石垣島白保地区でのサンゴ礁保全に取り組んでいます。

平成20年から続く住友生命様からのご支援により、住民主体のサンゴ礁保全と地域の活性化の両立に取り組んできました。その成果として、平成25年に特定非営利活動法人夏花(なつばな)が設立され、住民によるサンゴ礁の調査やエコツーリズムを活用したサンゴの保全活動がスタートしています。

今後、このご支援を活かして、南西諸島の島々への保全活動の展開を図りたいと考えています。



WWFサンゴ礁保護研究センター
センター長

上村 真仁氏

職員による環境ボランティア

職員によるボランティア活動「ヒューマニー活動」においても、環境保全に取り組んでいます。全国の職員が、地域の清掃活動や森林の間伐、植林活動などに積極的に参加しています。また、「サンゴ礁保全プロジェクト」と連動し、全国から希望者を募り石垣島で保全活動を実施しています。



省エネ・省資源への取組み

事業活動を通じた取組み

全社的に省エネ・省資源の取組みを行っています。具体的には、当社事業活動において環境負荷の大きい紙使用量の削減および電気使用量の削減について、各所属が主体となって積極的に取り組んでいます。

また、従来は紙冊子であった保険約款をCD-ROM化することにより、大幅な紙使用量削減につながっています。

印刷物への環境配慮

お客さま向けカレンダーや商品パンフレット、社内向け教材等様々な印刷物に、再生紙・植物油インキを使用するなど、環境にやさしい取組みを行っています。

当社独自の環境シンボルマークを制定し、環境に配慮した印刷物に記載する等、職員の環境意識を高めながら、全社的な取組みを行っています。



環境に配慮した不動産運用

当社が全国に保有する約150棟のテナントビルについては、省エネ型設備の導入や冷暖房設備のきめ細やかな温度設定などを通じて省エネ推進に取り組んでいます。

改修工事にあたっては、環境と品質の両面から検討を行い、温室効果ガス削減に重点を置くとともに、運用管理面においても一層の効率化や入居テナントとの協力関係を構築しています。

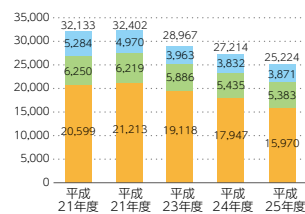
また、本社ビル等についても、省エネルギーかつ高効率な機器への設備更新を計画的に進めています。

東京本社ビル(興和住生築地ビル)では平成25年度には40%(*)の温室効果ガス削減を達成し、また、近年の電力の有効活用・省エネルギーの推進等への取組みに顕著な功績があった事業場として、関東地区電気使用合理化委員会(一般社団法人日本電気協会関東支部)による「電気使用合理化に関する表彰」において、平成24年度に引き続き、平成25年度も「最優秀賞」を受賞しました。

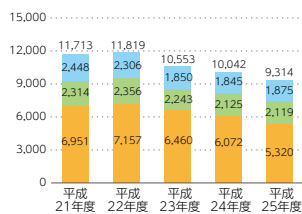
(※)平成14~16年度の平均排出量対比

環境パフォーマンスデータ

● 電気(千kWh)

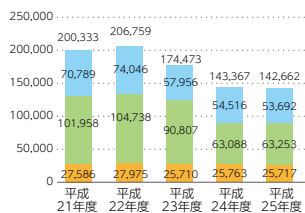


● CO₂(t-co₂)

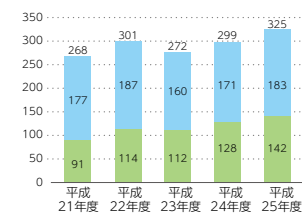


※電気・ガス・重油使用量から算出
※東京都環境確保条例、大阪府環境条例に基づく

● 水道(m³)

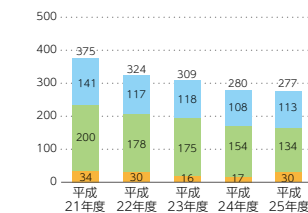


● ガス(Km³)



(電気使用量の抑制に努めた結果、ガス使用量は微増となりました。)

● 紙(t)



※PPC用紙購入量から算出

スマセイ環境方針

住友生命は地球環境の維持・保全が我々が目指す「豊かで明るい長寿社会の実現」に必要不可欠であると考えています。

当社事業の公共性や社会への責任を踏まえ「健康な暮らしを支えるため、事業活動において常に地球環境への影響に配慮し、その保護に積極的に取り組む」ことをCSR経営方針に定め、日々の活動において以下の方針に従い、着実かつ持続可能な地球環境保護活動へ取り組みます。

- 1.地球環境保護の大切さ、および事業活動の環境への負荷を十分に認識し、事業活動を通じた地球環境保護を推進します。
- 2.オフィスの省エネルギー・省資源、廃棄物のリサイクル、ならびに消耗品・什器・備品等のグリーン購入を推進します。
- 3.役職員一人ひとりの環境啓発に努め、その地球環境保護活動を支援するとともに、環境面での社会貢献に積極的に取り組みます。

震災復興への取組み

東日本大震災の復興支援を目的とした主な社会貢献活動をご紹介します。

職員による活動

チャリティバザーの開催

例年、職員が商品を持ち寄り開催しているチャリティバザーにおいて、売上金の一部を寄付するとともに募金活動や東北商品コーナーを設置し、購入支援を行いました。



職員ボランティア活動支援

被災地の復興に少しでも役に立ちたいとの思いから職員から参加者を募集し、瓦礫の撤去や掃除、農業や漁業の現地ボランティア活動等を実施しました。



子どもたちへの支援

子育て団体への支援

「未来を強くする子育てプロジェクト」の一環として、「震災復興応援特別賞」を設けています。平成25年度は震災後の子どもの居場所、遊び場づくりに取組む団体等に支援を行いました。

被災地の学校へのピアノの寄贈

全国縦断チャリティコンサートの会場でお預かりした募金の一部でピアノを購入し、被災地の学校に寄贈しました。

東北の高校生の富士登山イベントへの支援

日本一高い山に登ることで自信をもって復興に臨んでほしいという想いから、東北の高校生を対象とした富士登山イベントを支援しました。



町づくり支援

すべての人が暮らしやすい町づくりの支援

東北における復興の過程で、すべての人が暮らしやすい町をつくるための活動を支援しています。宮城県、岩手県等でセミナーを開催するなど、町づくりに向けた取組みを支援しました。



音楽の力による心のケア

東北の病院等でのコンサートへの協賛

音楽の力で勇気付けるために、世界的指揮者である大野和士氏が病院等で行う「こころふれあいコンサート」に協賛し、平成25年度は福島県、宮城県などで開催しました。



財団の紹介

住友生命福祉文化財団、住友生命健康財団の二財団にて「社会福祉」「健康増進」などの分野の社会的課題に取り組んでいます。また当社が設立メンバーである住友財団では、基礎科学、環境、芸術・文化、国際交流等の各分野で、研究や事業に対して助成を行っています。

一般財団法人 住友生命福祉文化財団

住友生命福祉文化財団は、昭和35年設立の財団法人で、社会の福祉および文化の振興に貢献すべく、予防医学振興事業、福祉事業、音楽文化振興事業と多岐に渡る事業を展開しています。

<http://www.ssj.or.jp/>

公益財団法人 住友生命健康財団

住友生命健康財団は、昭和60年設立の財団法人で、人々の生涯にわたる心身の健康に関する啓発活動を行い、あわせて地域の健康増進に貢献すべく、スミセイライフフォーラム「生きる」をはじめとした、各種取組みを行っています。

<http://www.sumitomolife.co.jp/csr/kouken/kenkou/kenkou.html>

公益財団法人 住友財団

「住友財団」は、住友グループの礎である別子銅山開抗300年を記念して、平成3年9月に住友グループ20社で設立した多目的の財団で、当社も設立メンバーの1社です。財団の資産(現在の正味財産約227億円)の運用益を財源として、「基礎科学研究助成」「環境研究助成」「文化財維持・修復事業助成」「海外の文化財維持・修復事業助成」「アジア諸国における日本関連研究助成」などの助成を行っています。

平成25年度は、東日本大震災被災者緊急支援活動に対する助成、被災した文化財の修理事業助成等も含め、309件、4億6千5百万円に及ぶ助成を行いました。



松竹・椿・水仙図 牡丹・石蘭図 紫陽花・百合図
写真は、平成25年度助成対象、大分市美術館所蔵 田能村竹田(たのむらちくでん)関係資料 帆足家伝来(ほあしけでんらい)「花卉図(かきず)」